

## 育成を目指す資質・能力

(知識・技能) かさの単位mL, dL, Lとそれらの関係を理解し、適切なかさの単位を用いて、身の回りの具体物のかさを測定する技能を身に付けている。

(思・判・表) 長さの普遍単位から類推して、かさについても普遍単位の必要性を見出したり、必要に応じて、1つの単位から新しい単位をつくることを見いだしたりしている。

(学びに向かう力) 普遍単位を用いてかさを表すよさに気付き、かさの単位や測定を生活や学習に生かそうとしている。

## ICT活用のポイント

事前に撮影した1 dLで10 dLマスに入る水を量る動画の提示

子どもが4 Lの容器に入っている水を5dLマスや10dLマスを用いて量る様子の撮影

### 【であう】

かさの不変単位の必要性に気付き、単位「dL」を知る。

### 【追究する】

かさの単位「L」を知り、 $1L = 10dL$ の関係と目的に合わせた単位を使うよさを理解する。

かさについて簡単な加法・減法の計算をする。

身の回りの入れ物に入る水のかさを測定する。

かさの単位「1 mL」を知り、1 Lや1 dLとの関係を理解する。

### 【つかう】

具体的な事象に関わる問題をかさの考えを用いて解決し、学習をまとめる。

## 事例の概要

1 dLで10 dLマスに入る水を量る動画を提示し、動画に合わせて、1 dLマスの杯数を数えながら、10 dLマスに入る量を確認する。

実際に子どもが4 Lの容器に入っている水を量る様子を撮影しながら、5 dLマスと10 dLマスの杯数の違いを記録する。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

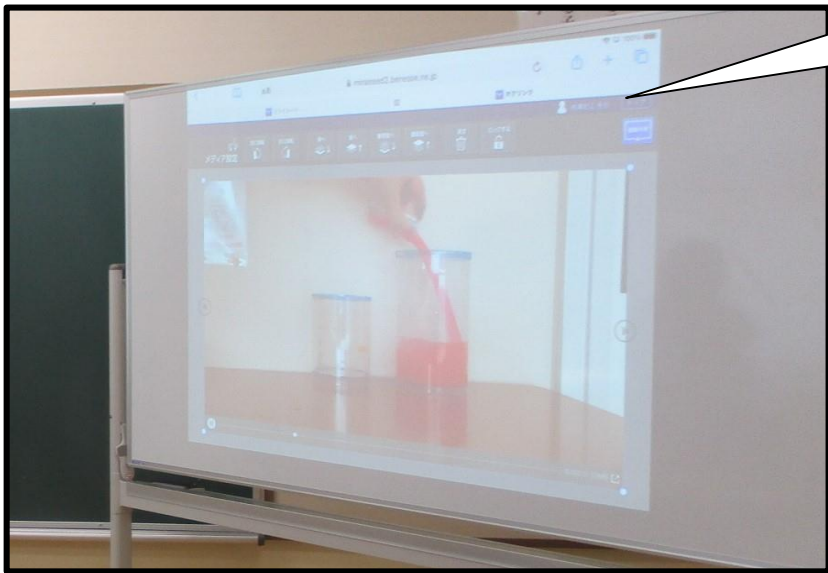
10dLマスに入る1dLマスの水の杯数を確認しながら、前時に行った1 dLに対する学習を想起することができる。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

4 Lの容器に入っている水を、5dLマスと10dLマスを用いて量る様子を記録し、5 dLと10dLの違いやよさを実感することができる。

# 【算数・小2・水のかさをしらべよう】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



T：この前の勉強の1dLで10dLマスに何杯入るか調べる動画を準備したから、一緒に数えてみよう。

C：10dLマスに1dLマスは、10杯入ったね。

子どもは、動画を見ながら、10dLに入る1dLの杯数を数えていた。加えて5dLに入る1dLの杯数も数えていた。それぞれの杯数を数えながら、前時の学習の1dLを改めて理解するとともに、1dLを基に10dLを認識することができていた。これは、杯数に焦点化した動画を視聴することにより、実際に量りながらでは認識しにくい1dLと10dLの関係を客観的に認識することができたためであると考えられる。さらに、事前に動画を準備しておくことにより、本時の中心の活動に十分な時間を確保することができた。

【活用したソフトや機能】 ・動画

## 【事例におけるICT活用の場面②】



T：この容器（4L）の水を量るのに、10dLマスと5dLマスどちらがいい？

C：早く量ることができるから、10dLマスがいい。

T：じゃあ、先生は5dLマスだね。5dLマスのよさはあるかな？

C：10dLに比べて軽く量れる。

子どもは、実際に水を量ることで、選んだ10dLマスのよさや、もう一方の5dLマスのよさを伝えていた。これは、水を量る様子を撮影することにより、量る体験自体への集中が促進されるとともに、活動後に撮影した画像を通じて体験を振り返ることにより、5dLマスと10dLマスの違いやよさを様々な感覚と結びつけながら実感を伴って理解できたためであると考えられる。また、動画の撮影をオンライン学習サポーターの方が行うことで、担任は子どもの学びを焦点化して授業を進めることができた。さらに、動画はこのあとの学習でもその都度生かすことができる。

【活用したソフトや機能】 ・カメラ ・学習ソフト：提出箱